

カオス

抑圧の最前線
～六ヶ所から

著者 岩田 雅一

(いわた まさかず)

日本キリスト教団 八戸北伝道所牧師

大阪市生まれ、農村伝道神学校卒業。1984年より国策として六ヶ所村で進む『核燃料サイクル基地』に、立地段階から建設・操業段階へと一貫して反対し、現地で行動。

牧師の傍ら現地で写真を撮り、ルポルタージュを書く。

【著書】『岐路に立つ六ヶ所村の人々と共に』（新教出版社・1990）、『寺下力三郎とわれら六ヶ所村の闘い』（伝道所・1999）、原子力行政を問い直す宗教者の会編『総ヒバクの危機—いのちを守りたい』（游学社・2001）に写真提供、『嵐の中で 一牧師のたたかい』（伝道所・2009）。

八戸のK教会で紛争を経験し分離独立、伝道所開設に至る。

写真家として、『混沌（カオス）の村・六ヶ所』写真展を全国で開催。

役職として奥羽教区核燃料サイクル問題小委員会委員長、日本キリスト教団核問題連絡会代表、原子力行政を問い直す宗教者の会世話人ほか。



ISBN978-4-86211-329-0 C0036

四六判 280 ページ

定価（本体 1,500 円＋税）

六ヶ所村・反骨の系譜

鎌田 慧

六ヶ所村に建設されてすでに二〇年。いまだ稼働せず、立ち腐れ状態になっているのが、核燃料再処理工場である。稼働できないのは、この危険工場が、ここに生活していた人びとの不屈の闘志によって取り巻かれているからである。

志半ばにして他界した寺下力三郎、小泉金吾、坂井留吉、安田光昭さんたちの遺志が、工場のあたりに漲っている。憤死した死者の想いを無視できない。

向中野勇、高田与三郎、種市信雄さん、六〇年代後半、「むつ小川原開発反対」闘争以来の草莽の抵抗者はまだ健在である。

熱血のキリスト者・岩田雅一さんは、この人たちに共鳴してその声を伝え、闘争の場にも立ち、その姿を捉えてきた。

核兵器原料・プルトニウムを生産する再処理工場を廃絶するまで、わたしたちは死者の赤い魂とともにある。

（ルポライター）

岩田雅一さんの本を推薦します

鎌田 慧